



かきぬいかし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

「小学生の頃、本読みといえは〇〇、イラストといえは〇〇…
～私たちはいくつの目立たない原石を見つけられるか!～」

AKB48を育てた秋元 康氏の文章にはいつも注目しています。今回は第3弾です。「アドレナリンの夜」という朗読劇で、全員が同じ台本を朗読するということをやったそうです。簡単だと思いがちですが、入念に読み込んできても、たくさん稽古をしてきても、つかえたり、読み間違えたり、飛ばしたりしてしまうそうです。当然、テレビに多く出て、有名になった人が活躍したかということ、よい評価を得たのは、観客に想像する余白を作った人たちだったそうです。今まで演技力が高いと評価されてきたメンバーより、ほとんどノーマークだったメンバーが喝采を浴びたそうです。秋元氏は続けます。「光はいろいろな角度で当てないと、見えないものがある。」「突然、輝き始める原石がある。」「僕は、いくつの目立たない原石を見つけることができるのだろうか!」新しい企画を次々と打ち出すエネルギーの源はどこにあるのだろうかと思ってきましたが、メンバーの一人ひとりを大切に、それぞれの良さを引き出すことに全力を傾けておられるんだなあと感心しました。

ひるがえって、小学校教育も、各家庭での子育てにも同じことがいえるような気がします。一律に、全員同じことが同じようにできるというのを目指すことも大切ですが、〇〇さんは、これをさせたらピカイチだったなあというように、その子のほかの子にはない良さを引き出してあげられるように見守り、応援していきたいものです。

ただ、だから個性を尊重させるあまり、何でも自由奔放がいいわけではありません。私は高校時代サッカー部でしたが、野球部は丸刈りできちんとしていて、サッカー部はやんちゃの集まりでいいんだみたいな風潮がありました。しかし、全国で強豪校が出てきた頃、世間の見方は変わってきました。日頃のあいさつや礼儀正しい立ち振る舞いができない選手は、人が見ていない時にもくもくと人の2倍も3倍も努力するということはできない。もくもくと努力できる選手でなければ成功できないということです。ダンスなどを必死で練習して芸能界で成功することを夢見る若者が増えてきました。衣装など多彩でカラフルです。「派手=だらしない」と思われている方がいるかもしれませんが、それは全く別です。きちんとしてできない人やグループは、常時の練習会場を借りることも、テレビなどの表舞台で生き残り、成功することもできないそうです。社会のルールがしっかり守れ、一般常識を身につけて礼儀正しくあいさつできたり、後始末などをしっかりして世間に迷惑をかけないようにできる人やグループだけが成功できるのだそうです。ほんのちょっとした努力で成功で

きるほど世の中は甘くないそうです。テレビなどに出て活躍している人たちは、日々努力しているたくさんの人たちのなかのその中でもさらにひたむきに努力を積み重ねた氷山の一角（ほんの一握りの人）だけだそうです。心したいし、それを子どもたちにしっかり伝えていかなければならないとも思います。

お知らせ

このところ全国的に新型コロナウイルスの感染者が増加しています。市内においても、児童の新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されたことにより、臨時休校措置をとった学校もあったところです。学校の職員または児童の感染が判明した場合は、教育委員会や保健所と連携し、臨時休校措置や消毒、さらに濃厚接触者の認定など、速やかに対応する必要があります。お子さんやご家族に新型コロナウイルス感染症の疑いがあり、PCR検査等を受けられる場合は、学校にもご一報ください。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

全国学力学習状況調査の問題にチャレンジします（6年生）

以前お知らせしましたように、本年度の全国学力学習状況調査（6年生対象）は中止となりました。ただ、問題用紙等については各学校に配布されていますので、草津市では、学力学習状況調査の問題にチャレンジする機会を設けることとなりました。本校でも12月4日に調査を実施し、子どもたちの学びの状況を確認しつつ、指導に役立てたいと考えています。ご承知ください。

笠縫東小：こころの教育コーナー

失敗は経験の1つに過ぎない

「どんな経験も、その意味を決めるのは自分！」

アドラーはどんな経験をしたとしても、それが次に成功するか失敗するかを左右するものではないと言っているよ。つまり、「今回うまくいかなかったから、次も失敗する」とは限らないということだね。

じゃあ、次に成功するか、失敗するかを決めるのは何か？

アドラーは、経験したことに対して、自分がどんな「意味」を見いだすか、どうとらえるかにかかっているとされているよ。

たとえば、発明王のエジソンは、電球を発明するまでに100回も200回も失敗を繰り返した。でも、エジソンは「失敗」とは言っていない。「この方法ではダメという発見をした」ととらえたんだ。前向きにとらえたんだね。経験をプラスにするのも、マイナスにするのも、君次第なんだよ。

（「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より）